

平成31年度 京都府立峰山高等学校弥栄分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）（案）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動をとおして、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>[成果]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価アンケートでは、生徒・保護者ともに好ましい評価が得られた。 2 年度当初の1・2年生一斉家庭訪問や学習支援員によるサポート等の効果により年間をとおして落ち着いた学習環境を維持できた。 3 生徒会・農業クラブ・家庭クラブがよく機能し、学校祭・奈具丘祭をはじめとする学校行事の成功をもたらした。 4 弥栄分校独自の取組である「漢字学習」や資格取得・技能認定等の取組が充実した（学校外学修単位認定5名、教育長表彰4名）。 5 専門学科の強みを活かした地域連携や学校間連携を推進し、生徒の社会性を高めている。 6 各教科、「探求Ⅰ・Ⅱ」並びに特別活動の段階的な取組により、社会へのスムーズな接続が実現している。 7 支援が必要な生徒や困難家庭等の対応に際して、京丹後市・児童相談所等の関係機関や精神科医等の専門家との連携を進めた。 8 ホームページの更新を積極的に進め（年更新200件）タイムリーな情報発信に努めるとともに奈具丘通信の発行（年12回発行）など積極的な広報活動を推進した。また、新聞等に延べ35件掲載され弥栄分校の取組が広く地域の方にも発信できた。 <p>[課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 予習、復習、試験勉強など主体的な学習習慣の育成 2 遅刻・欠席防止指導の強化と好ましい生活習慣確立 3 家庭連携を重視した計画的・組織的進路指導の推進 4 自他尊重の気持ち・公共心の育成と人権感覚の醸成 5 特別な教育的支援を必要とする生徒への適切な対応 6 丹後通学圏の高校再編に係る準備とスムーズな移行 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の主体的な学びを促進する授業改善と「漢字学習」等を活用した学習習慣の定着 2 「探求Ⅰ・Ⅱ」、人権学習、特別活動、ボランティア活動の充実による自律性と社会性の育成 3 地域連携、他学科・他校との協働による専門学科教育の特色化並びに地域創生に資する人材育成と進路指導 4 家庭との連携を重視した教育相談及び特別支援教育の体制整備と個に応じた指導の充実 5 弥栄分校閉校を見据えた教育活動実施にあたっての工夫と新設高校開校準備への協力

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

（A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	生徒の学力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間や生徒対象授業評価を実施し、1年を通して授業改善に取り組み、わかる（丁寧に語りかけ、問いかける）授業を継続的に実施する。 ・シラバスを発行して学ぶ意義や方法を示すことで学習意欲を喚起し学ぶ姿勢を確立させる。 ・校内漢字テスト及び週末課題の取組を通して、家庭学習習慣と基礎学力を身につけさせる。 ・各教科からの長期休業中の課題を取りまとめて整理する。 ・学年と協力して試験前学習会を設定するなどして「勉強して試験を受ける」生徒を増やす。 ・不得意科目を持つ生徒に、振り返り学習・補習などで力をつけさせる。 		
	授業規律の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ベル着を定着させ、50分の授業時間を生かす。 ・教室環境の整備、空き時間の校内巡回、生徒の状況把握等を行い、授業環境を整える。 ・生徒の教材準備点検週間を設け、授業開始前に教科書等を準備する習慣を身につけさせる。 ・学習支援員と協力して授業規律を確保し、主体的に授業に臨む生徒を増やす。 		
生徒指導	ルールとマナーを守る規範意識・道徳意識向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ、挨拶、入室マナー及び交通マナーを向上させる。 ・インターネットやスマートフォン使用に関するモラルとマナーについて向上させる。 ・遅刻者防止指導により朝の遅刻者を減らす。 		
	生徒会活動の充実と部活動・ボランティア活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が生徒会活動や行事に積極的に取り組むよう指導する。 ・各分掌や各学科との連携を図り、ボランティア活動参加者の増加を目指す。 ・部活動の加入を促し、活性化を図る。 		
進路指導	3年生全員の進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に個人面談を実施し、本人に進路を具体的に自覚させ、早めに必要な準備を促す。 ・担任、保護者、学科などと連携してより現実的な進路指導を行う。 		

		<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して、企業情報を的確に把握し、求人確保に努める。 ・就職、進学ともに応募手続きなど、常に早めを意識させ申し込ませる。 			
	1・2年生の進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の取り組みと連携してキャリア教育を充実させる。 ・探求の授業の中で進路を意識した仕事調べ、プレゼンテーション、模擬面接の練習を行う。 ・2学期後半に幅広い進路学習を行う。 ・2年生全員の進路面談を1月～2月に実施することで、3年生になるまでに希望進路をしっかりと考えさせる。 			
人権教育	生徒・教職員の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ごとにテーマ設定を行ない計画的に人権学習を行う。 ・人権意識の視野が広がり、生徒理解につながる教職員研修に努める。 			
	人権尊重の環境整備と人権侵害事象への迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの違いを許容し、相互に人として認め合い、支え合うことのできる雰囲気作りに努める。とくに日頃の言葉遣いを意識する。 ・人権侵害事象に速やかに対応することで早期収束に努める。 			
健康・安全教育	健康保持のために必要な実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の健康状態を把握し、課題に沿った保健教育を進める。 ・各種講演会を通して、正しい知識を身に付け将来を見通した健康的な生活を考える機会にする。 			
	美化清掃活動の推進と学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会によるゴミ減量化に向けて取組や学校周辺の清掃ボランティアにより、校内美化を推進する。 ・安全点検を実施し、改善の必要な場所を掌握し要望する。 			
特別支援教育	配慮を要する生徒へのきめ細やかな組織的支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「気になる生徒」について早期に小会議（ケース会議）をもち対応を検討する。） ・生徒の課題について教職員間で日常的に共有し、学習支援員のサポート等組織的に行う。 ・特別支援教育に関する教職員研修を実施する。 			

図書・情報活動	文化に親しむ心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の時間の設定や案内冊子・図書館だよりを発行し、図書館利用の活性化をはかる。 ・情操教育の一環として芸術作品に触れる機会を設定する。 			
家庭・地域連携	P T A 役員と密な連携による P T A 活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 活動への参加を促し、活動を充実させる。 			
	ホームページの更新等、積極的な広報活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校内からの情報提供を受け、授業・学校行事等に合わせてタイムリーに継続的に活用する。 			
専門学科教育	専門学科での学びを生かし生徒自身が主体的に行動できる力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びの姿勢を定着させるため、生徒の成功体験、達成感、充実感を意識した専門教育の充実を図る。 ・地域や関係機関との連携を図り、地域社会に貢献できる人材を育成する。 ・専門学科の特色を踏まえた、新設校への円滑な移行と共存を行い、教育施設・システムの充実を図る。 			
普通教科教育	社会生活に必要な基礎学力と自ら考える力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が意欲的に学習し、達成感を味わえるようなユニバーサルデザインの授業、また将来の職業選択に必要なスキルが身につくような具体例を多用する授業を行う。 ・生徒同士での意見交流や全体に向けての発表など、主体的・対話的で深い学びを体感する機会を増やす。 ・普通科会議を定期的に行い、生徒理解を深め組織的な指導を行う。 			

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方 向 性	
-------------------------	--